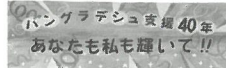


2025年活動スローガン「バングラデシュ支援40年 あなたも私も輝いて!!」



報 告

2025年4月～7月支援分

〈バングラデシュ〉

●活動・イベント

- ・エンゼルホームに新しく3人のこどもが入所しました。(4/8)
- ・YURIKOエンゼルスクールでバングラデシュの旧正月プログラムを児童・保護者参加で行いました。(4/14)
- ・エンゼルホームクリニックに新たに理学療法センターを開設しました。(5/3)
- ・ダッカの日本人学校の生徒達と交流会を行いました。(5/29)

●寄付

- ・占いの館「千里眼」様より25カ所の学校にトイレ25基
- ・仲島正教様よりYURIKOエンゼルスクールの図書室に図書174冊
- ・朝田花様よりエンゼルホームの図書室に図書177冊
- ・西澤芳正様よりマハムニ母子寮に図書176冊
- ・有志の方よりYURIKOエンゼルスクールにパソコン1台
- ・佐賀県のNPO法人「POSA」よりエンゼルクリニックに眼科医療機器

〈国内活動〉

- ・6月8日にボランティアセンターで「楽しいボランティアひろば」を開催しました。活動紹介や手芸品、ノクシカタ刺しゅう製品の展示販売、その他にも様々なワークショップや模擬店などがあり、こどもから大人まで一日楽しく過ごしました。



イベント情報

秋のチャリティバザー

10/22 (水)

場所：本協会ボランティアセンター（伊丹市）
時間：10:00～14:00

●チャリティバザーにご協力ください●

バザーで販売する品物のご提供をお願いしています。食器・なべ類、シーツ、タオル、衣料、食料品、雑貨、カバン、おもちゃなどいつでも受け付けています。事務所までご連絡下さい。
☆取り扱っていないもの☆
家具、大型電化製品、自転車、使用済み食器等

編集後記

最近、ボランティアセンターの入り口に、小さなワゴンを置いて無人のバザーを始めました。名付けて「オネスティバザー」。食器やカバンなど、さまざまな品物が並び、道ゆく人や、時にはボランティアの方々が足を止め、手に取って買っていただきます。誰も品物を持ち去るようなことはなく、代金は備え付けの箱にきちんと入れてくれます。皆さんのこうした善意の心が、遠くバングラデシュのこどもたちへの支援につながっていく、そう思うと小さな積み重ねの大切さを改めて感じます。今日もワゴンは、風に吹かれながら、そっと皆さんの優しさを待っています。

2025年 行事予定

7月現在

8月	4日(月)～11日(月・祝)	バングラデシュツアー	バングラデシュ
9月	20日(土)	バングラデシュ支援40周年お祝い会	本協会ボランティアセンター 伊丹市
10月	22日(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター 伊丹市
11月	5日(水)	チャリティバザー	名谷駅前広場 神戸市
	28日(金)～12月8日(月)	バングラデシュツアー	バングラデシュ

※行事予定はホームページ上にも掲載、随時更新しています。

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

会員募集

本協会の活動は皆さまの会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いいたします。

●正会員

一般会員 年額1口 6,000円
特別会員 年額1口30,000円

●DCEF会員(教育里親)

1カ月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替でお送り下さい。
郵便自動払込方法も受付ています。

郵便振替・口座番号
01130-1-59586

※その他、バザー用物資によるご協力もよろしくお願いします。

会員数：一般会員 565名
DCEF会員 505名
(7月1日現在)

ANGEL NEWS

通巻212号
2025.07

木津市場（木津の朝市）でのバザー

今年も無事に春のチャリティバザーを開催することができました。開催にあたりたくさんの方にご協力いただきましたこと、心よりお礼申し上げます。そして、春のチャリティバザーの次は各地でボランティアさんが集まって大小さまざまにバザーが開催されました。神戸北にあるスーパーから始まり、須磨から和泉まで実に11回（一部は当日雨天で中止となってしまいましたが）、それぞれボランティアさんが集まって企画し、準備から当日の運営まで行ってくださいました。自分が担当するバザー以外の他のバザーにも積極的に参加されており、毎日目まぐるしくボランティア活動されている姿にただただ頭が下がる思いでした。

バザーの開催にあたり、会場をお貸しくださったお店や神社、その他関係する皆様にも改めてお礼申し上げます。三田市のスーパーニシヤマ様には数日前にも関わらず「当日雨で開催できなければいつでも振替で開催してくれていいですよ」とお気遣いいただき、大阪の木津市場様やエコールいずみ様には、机の準備から大々的なバザー告知までしていただきました。その他の方々も皆さんチャリティの趣旨にご賛同くださり、大変よくしていただきました。

バザーは私達だけではできません。品物をご提供くださる方、周辺地域の皆様、そしてお買い上げくださるお客様、多くの方のおかげで開催することができています。そこで生まれる人とのつながり、楽しい笑顔の輪、それこそが国際エンゼル協会のチャリティバザーの一番の魅力だと思います。この輪が40年分繋がって強い絆の鎖となり、私達とバングラデシュのこども達を繋いでくれています。これからもどうぞ、チャリティバザーへのご協力よろしくお願いします。

事務局長 東村 良平

発行者



認定特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp



ホームページ

バングラデシュ支援報告～図書寄付～

バングラデシュでは、日本のように子ども達が本に触れる機会がありません。大きな町にしか本屋さんはなく、一般的には文房具などと一緒に商店の一区画におかれている程度です。学校に図書室があるところも多くはありません。本は心を豊かにし、想像力を育ててくれます。国際エンゼル協会では子ども達に心の豊かな人間に育ててほしいとの願いから、図書のご寄付をお願いしております。エンゼルホームやYURIKOエンゼルスクールでは毎年本をご寄付くださる方のおかげで、毎日飽きることなく子ども達が図書室で本を読んで過ごしています。その他にも、管理が可能な地方の学校にも図書を寄贈しております。皆様、どうぞご協力よろしくお願いします。



エンゼルホームの近くにある文具屋で本を売っている様子。日本のようにジャンル分けされて見やすく置いてはならず、乱雑に棚に積まれています。



昨年のツアーでは、図書をご寄付くださった会員さんに直接お礼を伝えることができました。



毎年ご寄付くださる会員さんと理事の方より、今年の春にもYURIKOエンゼルスクールの図書室やエンゼルホームの図書室にたくさんの図書をご寄付いただきました。



今年の春のバザーの際に図書のご寄付をいただき、地方の母子養護施設にもたくさんの図書を届けることができました。



今年の春のバザーの際に図書のご寄付をいただき、地方の母子養護施設にもたくさんの図書を届けることができました。

エンゼルホームのこども達が いただいた本を読んだ感想文を 送ってくれました。

私は今回いただいた本の中から Mizanur Rahman 著の「人生で成功したいなら」を読みました。この本には、私達が日常生活で行うべきことや人生で成功するために実践すべきことが書かれています。その多くは「時間厳守」「規律」に関する事柄でした。

私が一番感銘を受けたのは「仕事を時間通りにこなす」ことです。これは時間を大切にすることにつながります。また、いやなことを後回しにせず、一度決めたらきちんと時間通りやり通すことが大切だと学びました。例えば、その日読むと決めた本は途中で終わって後回しにせず、きちんと決めたところまで読むようにします。

こうして時間を大切にする習慣を身に付けることができれば、きっと将来社会に出た時に役に立つはずです。例えばオフィスで働く時、遅刻などせずにキッチンと時間通りにオフィスに行く習慣が身につきます。時間にゆとりができる心にもゆとりが持てるようになり、路上で貧しい人が困っているとずっと手を差し伸べることができるようになります。定期的に本を読むことで様々な知識を学ぶことができ、他の人に物事を説明する能力が向上します。

私はこの本に出合えて本当に良かったと思います。なぜなら、この本には人生で成功するためのあらゆるヒントが詰まっていたからです。教育的で道徳的な格言も数多く知ることができました。心を豊かにし、人生を正しく進むために必要な事柄を知ることができました。私はこの本で学んだ事をしっかりと実践できるよう、日々努力していきたいと思います。

サジブ・ホセイン

私のお気に入りの本は『Aam Aatir Bhepu』です。この本はアプーとドゥルガーという非常に貧しい家庭の姉弟の物語です。彼らの生活は貧しいものでしたが、田舎の果物や様々なものを食べる事に喜びを感じ、日々の些細な事柄に驚き、好奇心を満たし、経験を重ねていました。姉のドゥルガーは一日中庭や通り、ガート（灌漑用水路）を歩き回り、貧しさを苦勞と思わず日々を楽しんでいました。



私が一番印象に残ったシーンはドゥルガーが熱病で亡くなったところです。彼女が死の間際まで熱で震えている時、貧しい家の穴の空いたトタン屋根から雨が降り注ぎ、母親は娘を守ろうと必死に覆ってくれていました。この場面を想像すると心が締め付けられるように苦しく、その思いはどのような言葉で表しても伝えきることにはできないでしょう。そして、ドゥルガーが熱病で亡くなった時、私は感情を抑えきれなくなり静かに泣きました。その夜、私は涙を抑えることができませんでした。

最後は悲しい結末でしたが、彼女が終始悲しい人生を送っていたわけではありません。彼女達は貧しくて足りないものも多くありました。日々お腹を空かせていました。しかし家には常に笑顔が溢れていました。それは、困難な人生でも喜びをもって楽しむことができれば、その人生に悲しみは微塵も存在しないということです。そして、その喜びは私達自身のものであり、自分達で作り出さなければならないのです。

この物語は「バングラデシュの今」が描かれています。現実に多くの人々が貧しさに苦しみ、困難な人生を送っています。作者はきっと子ども達に、貧しさに苦しみ負けてしまうのではなく、日々自然と触れ合い、自分達で楽しみを作り出し、人生を笑顔で幸せに過ごすことを伝えたいと思います。大人になって貧しさに苦しむ子ども達に出会った時、笑顔で寄り添い、共に幸せを作りだすことができるようになりたいと思いました。

カディジャ・アクター・ミーム